



待ち遠しい春を探して ～たけはら町並み雛めぐり～

3月2日、町並み保存地区で、「たけはら町並み雛めぐり」の関連イベントが行われ、たくさんの人でにぎわいました。

町並みかぐや姫ガイドでは、たけはらかぐや姫とたけはら観光ガイドが、町並み保存地区の建物や雛人形を案内しました。参加者は、興味深くうなずき、時には質問もしながらゆつくりと見て回っていました。

子ども雛めぐりでは、小学生以下の子どもたちが、着物姿で町並みを歩きました。色とりどりの着物で元気に歩く子どもたちと町並みの雰囲気を感じに残そうと、多くの人がカメラを構えていました。

旧笠井邸の雛めぐりライブで

は、箏や尺八の演奏などが行われました。部屋いっぱい観客が集まり、その音色に耳を傾けていました。

また、雛人形が飾られた各施設では、雛道具や飾り、顔つきなどがそれぞれ違う様子を熱心に眺めている姿も見られました。広島市内から来た女性は、

「鞆の浦や府中市上下町の雛祭りのイベントは行ったのですが、竹原は初めて。」

と、竹原の町並みの風情や雛人形を楽しんでいました。

年齢や性別に関係なく、今年もたくさんの方が訪れた町並み雛めぐり。まだ冷たい風の中にも、一足早い春を感じることができたのではないのでしょうか。



2月23日、バンブー公園の周辺で、大乘地区協働のまちづくりネットワーク環境衛生部会による、廃油石けん作りが行われました。これは、環境衛生部会が掲げる3R（リデュース・リユース・リサイクル）活動の一環として、「環境保全に向け自分たちができることを実践しよう！」という目標を実践したものです。

ゴミ箱行きの廃油が石けんに変身！ 大乘地区協働がすすめる3R

作業はスタートしました。まず苛性ソーダと水をかき混ぜ、色が変わると、そこへ廃油を入れてさらにかき混ぜました。とろみがかると、豆腐やヨーグルトの空き容器に流し込み、作業は終了。常温のまま約1か月間乾燥させると完成です。流し込んだ液体は、空き容器644個分にもなりました！石けんに生まれ変わるのが待ち遠しいですね。



卒園の記念に お茶の作法を体験

3月1日、藤原京子さんの自宅（下野町大井）で、藤原さんから大井保育所の園児5人へ、卒園お茶会が行われました。藤原さんによるお点前に園児は緊張気味でしたが、正座や礼などを丁寧にすることができました。少し大人の体験をした園児たちでした。



ノウハウを伝授 ジャがいも栽培体験

2月23日、吉名町毛木のじゃがいも畑で、竹原ブランド開発推進会議による、春馬鈴しょ栽培体験が行われ、市内外から9人が参加しました。

元矢和司さんを講師に、7品種のじゃがいもを植えました。参加者は、種イモを切り、植えつけ、殺菌剤・肥料を散布し、土寄せをし、じゃがいも栽培の一連の作業を体験。本格的な指導に、熱心にメモを取る参加者も。収穫は7月頃です。次回の農業塾は4月中旬を予定しています。

愛する忠海を表現 忠海公民館 60周年

3月8日、忠海公民館で、創立60周年記念式典が行われました。その後の舞台発表では、地域への愛情あふれる催し物が数多く披露されました。忠海小唄の昭和と平成バージョンでは、地域の人や子どもたち、PTAなどが協力した踊りと唄が披露され、会場からは温かい拍手が贈られました。



認知症について学ぶ

3月8日、たけはら美術館文化創造ホールで、認知症講演会が開催され225人が参加しました。講師の高畑紳一さん（県立広島病院精神神経科主任部長）が認知症の症状やその原因疾患について話され、参加者からは、詳細な資料と講演内容で非常に分かりやすかったという声が聞かれました。



思い出と感謝を胸に 卒業式

3月20日、市内10校の小学校で卒業式が行われました。

忠海東小学校では、6年生10人に卒業証書が授与されました。式典では、運動会、子ども太鼓、児童会など、喜びも悲しみもたくさんあった6年間を振り返り、卒業生の輝く未来を願ってエールが送られました。

式典終了後は、サプライズとして、6年生が制作したメッセージビデオが上映されました。小学校生活の思い出や、先生・在校生・地域のみなさん・保護者への感謝の気持ちが込められたビデオに、涙を浮かべる姿も。「ありがとう」の気持ちが詰まった感動の卒業式でした。

やっぱり速い！ プロの陸上選手

3月22日、バンブー公園のグラウンドで、トップアスリート・陸上教室が行われ、中国電力陸上競技部の選手による指導のもと、ゲームやリレーなどで体を動かしました。参加者は、選手が走る速さに驚き、走る姿勢や手の振り方などを教えてもらう貴重な体験を喜んでいました。

